【樹木・草花の部屋】

スイセン（ヒガンバナ科スイセン属　Narcissus tazetta var. Chinensis）

和名；スイセン　別名；雪中花（せっちゅうか)、ニホンスイセン；日本寒水仙、寒咲き日本スイセン、スイセン（水仙)、フサザキスイセン（房咲き水仙)）　英名；Narcissus
　ユリ目 球根植物
原産地；地中海沿岸　花言葉；「思い出、記念」（房咲水仙)、「持って生まれた素質」（ラッパ水仙)、「詩人の心」（口紅水仙)、「思い出」（糸水仙)、「優しい追憶 」（笛吹水仙)、「田園の幸福 」（八重咲水仙）　花の色；黄、白

← 写真－１　ニホンスイセン
撮影日：２０１３年２月２６日
撮影場所：大和郡山市 M 邸にて
撮影者：M さん

我が家の庭をはじめ、あちらこちらでスイセンの花が可愛らしく咲き誇っています。 園芸店の店先でも多くの品種が並べられているようです。
ニホンスイセン(日本水仙)　は、日本で通常の水仙と認識される花で、１２～翌２月、芳香のある小さな盃状の花を咲かせます。葉と茎は緑色で細長く厚みがありショウブの葉を小さくした形をしています。日本水仙は房咲き水仙の仲間で、1 本の茎にいくつもの花をつけます。ニホンスイセンの群生地として伊豆下田の爪木崎、兵庫県淡路市、福井県越前海岸などが知られます。

写真－２　ラッパスイセン　⇒

撮影日：２００４年４月７日
撮影場所：大和郡山市 M 邸にて
撮影者：M さん

後少しで、ラッパスイセンの開花期になります。楽しみです。スイセン Narcissus は園芸品種が 1 万品種以上もあり、年々その品種が殖えているそうです。このため、品種名の混乱を防ぐ意味もあって、花の形や交配親の原種などによって、園芸品種の便宜的な区分が行われているようですが。植物分類学上の意味はないそうです。

【樹木・草花の部屋】

←写真－3　ミニスイセンテータテート
撮影日：２０１３年３月９日
撮影場所：大和郡山市 M 邸にて
撮影者：M さん

ミニスイセンは 4～5 年前に園芸店の店先に並べられていたのを見て、購入したものです。鉢植えしたものを土中に入れています。特に堀上、植替えをした記憶はありませんが、球根もさぞ増球していると思います。そろそろ掘上げてみようかな？

ニホンスイセンの房咲き系に対してキクラミネウス系は１つの茎に普通１つの花をつけ、花びらが反り返ります。ミニスイセンテータテートはその園芸品種(1 つの茎に 2～3 個の花がつくものもあるよう)です。

ミニスイセンの品種にはジェットファイヤー、テータテート、タリア、セイルボートがあるそうです。

ミニスイセンテータテー
英名；daffodil, narcissus
学名：Narcissus cyclamineus cv. Tete a tete
花の色；ニホンスイセン；黄

＜ちょっと一言＞

有　毒　情　報

全草が有毒植物で毒成分はリコリン（lycorine）とシュウ酸カルシウム（calcium oxalate）など。鱗茎（球根）に特に毒成分が多いそうです。スイセンの致死量は１０g。食中毒症状と接触性皮膚炎症状を起こす。中毒は初期に強い嘔吐があり摂取物の大半が吐き出されるため症状が重篤に到ることは稀だそうですが、鱗茎（球根）を浅葱（あさつき）と間違えて食べ死亡した例があるそうです。葉がニラととてもよく似ており、ニラと間違えて食べ中毒症状を起こすという事件が時々、報道されています。

*ニラとの大きな違いは
・葉からの臭いがない（ニラは葉からニラ独特の強い臭いを放つ)。
・鱗茎（球根）がある（ニラは髭（ひげ）根で鱗茎はない)。

なにげなく、家庭に植えている植物の中には有毒な植物も結構あるようです。要注意です。

備考；あさつき(別名：せんぼんわけぎ)
ユリ科の多年草でネギ類。各地の山野に自生。野菜としても栽培され、葉や鱗経を食用。